

## 令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	演劇	種目	演劇
	応募区分	特別エリア区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	かぶしきがいしや うりんこ		
	制作団体名	株式会社 うりんこ		
	代表者職・氏名	代表取締役 児玉 俊介	団体ウェブサイトURL www.urinko.jp	
	制作団体所在地	〒 465-0018	最寄駅(バス停)	宮根(名古屋市営バス) 愛知県名古屋市名東区八前一丁目112番地
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	げきだん うりんこ		
	公演団体名	劇団 うりんこ		
	代表者職・氏名	代表 児玉 俊介	団体ウェブサイトURL www.urinko.jp	
	公演団体所在地	〒 465-0018	最寄駅(バス停)	宮根(名古屋市営バス) 愛知県名古屋市名東区八前一丁目112番地
	制作団体 設立年月	1973年5月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等 団員構成員常勤30名(演技部20名、制作部10名)、経理1名、監査役1名 入団試験(書類選考、面接、実技)での合格	
	事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	西尾ひろみ、西尾栄儀
	経理処理等の監査担当の有無	有	経理担当者	中村敬子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス <a href="mailto:syousuke.urinko@gmail.com">syousuke.urinko@gmail.com</a>	電話番号	0527721882

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>昭和48年 劇団うりんこ創立          昭和51年 株式会社 劇団うりんこ設立          昭和54年 劇団うりんこ付属演劇研究所創立          昭和55年 名古屋市芸術奨励賞 団体賞受賞          平成4年 愛知県芸術文化選賞受賞          平成7年 (社)日本劇団協議会入会          平成13~15年 文化庁芸術団体重点支援事業          平成18年 児童福祉文化賞「だってだってのおばあさん」          平成23年 名古屋市文化振興事業団『第27回 芸術創造賞』受賞          平成24年 児童福祉文化賞「ぼくってヒーロー？」          平成25年 児童福祉文化賞「ねむるまち」          平成29年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「ともだちやーあいつもともだちー」          平成30年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「夜明けの落語」          令和2年 厚生労働省社会保障審議会特別推薦「きみがしらないひみつの3人」          令和3年2月 法人名を、株式会社うりんこに変更          令和5年 2月 名古屋市芸術特賞受賞          令和7年 3月 こども家庭庁こども家庭審議会特別推薦児童福祉文化財「クモばんばとぎんのくつした」</p>
	学校等における公演実績	<p>令和4年度:合計19作品687回(「小学校は宇宙ステーション」122回「なんちゃってヒーロー」89回「ヘンテコ鳥と、さかいめの3人」67回「ともだちやーあいつもともだち」73回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」82回「きみがしらないひみつの三人」99回「大きなカブ？/パーティー」16回「クモばんばとぎんのくつした」16回「学校ウサギをつかまえろ」6回「クローゼットQ」22回「罪と罰」2回「ダイアル ア ゴースト」6回「わたしとわたし、ぼくとぼく」36回「トン・キホーテ」4回「大切なあなたへーI need you！」8回「MARIMO」18回「しし丸どつかん！」17回「うたうじみ」1回)          内、学校公演実績14作品419回</p> <p>令和5年度:合計19作品605回(「小学校は宇宙ステーション」94回「ヘンテコ鳥と、さかいめの三人」96回「ともだちやーあいつもともだち」78回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」65回「くもばんばとぎんのくつした」95回「大きなカブ？/パーティー」160回「クローゼットQ」13回「わたしとわたし、ぼくとぼく」23回「ある晴れた夏の朝」6回、他10作品75回)          内、学校公演実績9作品530回</p> <p>令和6年度:合計16作品517回(「ある晴れた夏の朝」13回「クローゼットQ」18回「わたしとわたし、ぼくとぼく」11回「小学校は宇宙ステーション」80回「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」73回「ともだちやーあいつもともだち」72回「クモばんばとぎんのくつした」80回「大きなカブ？ パーティー」48回「ヘンテコ鳥と、さかいめの三人」63回、他7作品59回)          内、学校公演実績9作品458回</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>愛知県立港特別支援学校2008年7月11日          愛知県立安城特別支援学校2009年2月18日          栃木県立那須特別支援学校2016年11月14日(本事業)          愛知県立豊橋特別支援学校2018年11月21日(本事業)          愛知県豊田市立特別支援学校2019年7月5日          大阪府立平野支援学校2021年9月7日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」          香川県立香川東部養護学校2022年6月20日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」          三重県立聾学校2023年7月10日(本事業)「小学校は宇宙ステーション」          岐阜県立羽島特別支援学校2024年7月9日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」          岐阜県立揖斐特別支援学校2024年7月11日(本事業)「ともだちやーあいつもともだち」          三重県立特別支援学校西日野にじ学園2025年9月19日(本事業)「ヘンテコ鳥と、さかいめの三人」</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://vimeo.com/530157122">https://vimeo.com/530157122</a>	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: PW:	tomo251001

別添	なし				
		【公演団体名 劇団 うりんこ】			
対象	小学生(低学年)	<input type="radio"/>	小学生(中学年)	<input type="radio"/>	
	小学生(高学年)	<input type="radio"/>	中学生		
企画名	ともだちやーあいつもともだちー				
企画のねらい	<p>全学年の子どもたちにとって身近な課題である「友達との関わり」をテーマに、大人気の絵本「おれたち、ともだち」シリーズから3作品を原作とした演劇を創作しました。季節をあらわす舞台美術の変化や音楽的効果で観客の想像力を刺激し、絵本にえがかれているキャラクターを忠実に再現した衣装や小道具も見応えがあり、初めて演劇を観る子どもたちが、興味関心を持って楽しく鑑賞することができます。</p> <p>離島やへき地など芸術鑑賞機会の少ない地域で、楽しく且つ優れた演劇を鑑賞する機会を提供することで、全ての子どもたちに等しく文化芸術に触れる機会を提供することを目的とします。</p>				
演目概要・演目選択理由	<p>【演目概要】一人ぼっちで寂しがりのキツネは、ある日「ともだちや」を始めました。一時間100円で「ともだち」になってあげる商売です。でも、友達って買えるのかな？ 本当の友達って、どんなんだろう？ 友達どんがすれ違っちゃったら、どうしたらいいんだろう？ ちょっとの勇気で、友達が増えるって幸せだね。「ともだち」との様々な心のやり取りを描いた演劇です。</p> <p>【演目選択理由】友達とは、多くの喜びを共有し、苦しさや悲しみを分かち合う存在です。しかし今、学校生活において人間関係のトラブルや、人間関係でのストレスを抱える事例も多くみられます。この演目には、子どもたちが普段行っている遊びや、生活の中で感じる感情や感覚がたくさん出てきます。友達と一緒に遊ぶ楽しさ、意地悪や、ヤキモチの気持ちも出てきます。低学年から高学年まで、幅広い年齢の児童生徒にとって身近であり、興味深く鑑賞できる演目であることが選択の理由です。この「ともだちやーあいつもともだちー」は、平成28年度舞台芸術創造活動活性化事業に採択され、平成29年度厚生労働省社会保障審議会の児童福祉文化財特別推薦を受けています。</p>				
本公演・ワークショップの内容	児童・生徒の参加または体験の形態	<p>【参加(共演)の形態】共演の児童生徒は、20人以下(3年生以上)を予定しています。</p> <p>登場人物のキツネが、オオカミの助けを得てヘビと友達になった場面で共演します。俳優と一緒に「だるまさんがころんだ」をアレンジした遊び「だるまさんが○○した」を演じます。○○の部分では児童生徒が自ら考えて身体表現を行います。台詞も児童生徒のアイディアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。</p> <p>【体验の形態】上演後、バックステージツアーを実施します。限られた運搬量の演目でありながら、見栄え良い舞台装置にするための工夫や、衣裳の早替えの工夫や、俳優が演技をしながら音響の操作を行うための工夫などを見学してもらいます。</p> <p>舞台裏見学を通して演劇への興味を多方向から持つてもらう上で、舞台芸術に対する興味関心を喚起し、将来の芸術家育成や鑑賞能力向上に寄与したいと考えています。</p>			
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人數目安 100名、共演児童数20名以下	鑑賞人數目安 250名以下	
本公演演目	原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>演目:「ともだちやーあいつもともだちー」          原作:内田麟太郎(「ともだちや」「あいつもともだち」「ともだちごっこ」偕成社)          脚本・演出:佃典彦 美術:青木拓也 衣装:木場絵里香 音楽:内田アダチ 音響:椎名KANS 振付:下出祐子          【プログラム構成】          1, その木の木の実          2. ともだちや          3, ともだちごっこ          4, いれかわってみる?          (休憩10分)          5, あいつもともだち          6, あくしつぽ！            公演時間 80 分</p>			
	出演者	内田成信、宮腰清貴(宮腰裕貴)、高島絵里 カッコ内は芸名			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>佃典彦(脚本演出):第50回岸田國士戯曲賞『ぬけがら』受賞、愛知県芸術文化選奨文化賞(個人演劇)受賞          内田成信(出演、音楽音響):1990年劇団うりんこ入団、以後33年間・年間80ステージ以上の出演経験を持つだけでなく、複数の学校公演作品の音楽プラン・音響プランを担っている          下出祐子(劇団うりんこ芸術監督、振付):1984年劇団うりんこ入団、俳優だけでなく多くの作品の振付を担う</p>				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 3 名 スタッフ: 1 名 合 計: 4 名	運搬	積載量: 1.15 t 車 長: 4.99 m 台 数: 1 台		

本公司 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度		
	到着	仕込	上演	内休憩	撤去			
	9時	9時～11時 (ワークショップ 10時30分～12時10分)	13時30分～14時50 分	10分	15時～16時	16時30分		
※本公司演時間の目安は、概ね2時限分程度です。								
本公司 実施可能日数 目安	6月	7月	8月	9月				
	10日	0日	0日	5日				
	10月	11月	12月	1月				
	7日	5日	9日	14日				
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計	50日			
本公司 ・ワークショップ の内容								
	<p>図① 体育館のフロアに舞台を設置した状態。 体育館の形状や鑑賞人数によって、 設置場所を変更する場合があります。 舞台設置に必要な面積 幅約10m × 奥行約8 m</p>							
								
※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡								
	<p>図② 上演の様子 ・キツネは、1時間100円で「ともだちや」を始めました。 ・三人で「あくしっぽ！」 また明日も遊ぼうな</p>							
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否		該当あり	該当コンテンツ名	原作			
	該当事項がある 場合	権利者名	内田麟太郎「ともだちや」「あいつもともだち」「ともだちごっこ」(偕成社)	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

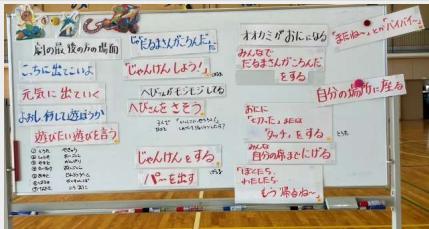
別添

なし

【公演団体名

劇団 うりんこ

】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	<p>①演劇的活動による想像力・コミュニケーション力・表現力の育成 ・見えない大縄の大縄跳びなど、想像力を使って楽しむ活動を行います。 ・ペアでの表現活動や小グループでの創作活動を行うことで、言語によるコミュニケーション(受信と発信)や他者との合意形成の体験を通してコミュニケーション能力を育成します。</p> <p>②自己肯定感や自信の醸成 ・児童生徒のアイディアを活かした共演場面の創作により、自らのアイディアが共演場面の創作に活かされる体験を通じ、発想力を育むと共に自己肯定感や自信を育みます。</p> <p>③本公演への興味関心を高める ・演目への興味関心を高めるために、子どもたちが主体的に楽しく活動できるよう親しみやすくわかりやすい表現での進行に努めます。</p>		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	小学校3年生以上の1学年(40名程度)
	ワークショップ実施形態及び内容	<p>標準:90分(前半45分、休憩10分、後半45分)  <b>【実施形態】</b>          3年生以上、1学年(40名程度)で行います。          ワークショップ指導経験者が2名で指導します。          共演(参加)場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、コミュニケーション力や表現力向上をはかる活動を実施します。  <b>【ワークショップ内容】</b> 前半45分          ①ガイダンス(5分)          ワークショップの目的を児童に伝えます。          ②導入の活動(15分) アイスブレイクのための活動を行います。ワークショップへの期待を高め、緊張をほぐすために行います。児童になじみの深い「じゃんけん」を使った活動です。          ③展開の活動①(25分) コミュニケーションを楽しむ活動を行います。          ペアで身体表現を楽しむ活動です。(例えば「ナイフとフォーク」)          想像を楽しむ活動を行います(例えば「見えない大縄」)          小集団で合意形成し、創作活動を行います。(例えば「フリーズフレーム」)          休憩(10分)          後半45分          ④展開の活動② 共演場面の内容を伝えます。(20分)          児童のアイディアを活かし、場面内容にあったセリフを創作し、実施校独自の共演場面をつくります。ともだちになったキツネ・オオカミ・ヘビと一緒に、だるまさんがころんだをして遊ぶ場面での共演です。身体をのびのびと使い遊びを演じます。          共演(参加)児童を決めます。          参加共演場面を演じます。(20分)          ⑤まとめ(5分)          ワークショップのふりかえりや質疑応答などを行います。           •ワークショップは本番に近い環境で行うために、公演会場と同じ場所(体育館)で実施します。          •配慮や支援が必要な児童生徒については、事前に担任の先生と情報共有し、無理のない進行や適切な声掛けでワークショップを行います。           ○本公演での共演(参加)に向けて          代表の児童が俳優と共に舞台で、「だるまさんがころんだ」で遊ぶ場面を演じます。本公演当日の午前中に45分程度のリハーサルを行います。代表の児童生徒はリハーサルへの参加が必要です。       </p>		
その他ワークショップに関する特記事項等			<p>イラストや、わかりやすい言葉で、共演場面について説明します。セリフは、児童のアイディアで決めていきます。共演児童の人数については、学校の希望に沿って5人～20人の間で柔軟に対応します。</p>	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

ワークショップ実施前に、参加児童に共演場面についての手紙(イラスト)を送ります。



別添

なし

【公演団体名】

劇団 うりんこ

】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。				
	・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。				
	・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。				
	・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。				
	上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。				
	任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。				
	詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただることになります。				
	なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。				

会場条件	(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
	会場の設置階の制限	2F以上応相談	主幹引き込み電源容量	60 A以上	
	舞台設置面積	間口	10 m	奥行	8 m
		高さ	3 m		
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	不可
	搬入間口の広さ	幅	1.8 m	高さ	1.8 m
	遮光の要否	5割程度必要	縦幕の要否	不要	
	ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否		条件なし
	搬入車両( トラック等 )の横づけ	応相談	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	10 m以内	
	搬入車両の種類	ハイエース	台数	1 台	
	搬入車両の大きさ	車幅	1.69 m	車長	4.99 m
	備考				

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。				
	会場図面の提出要否	要			
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)				

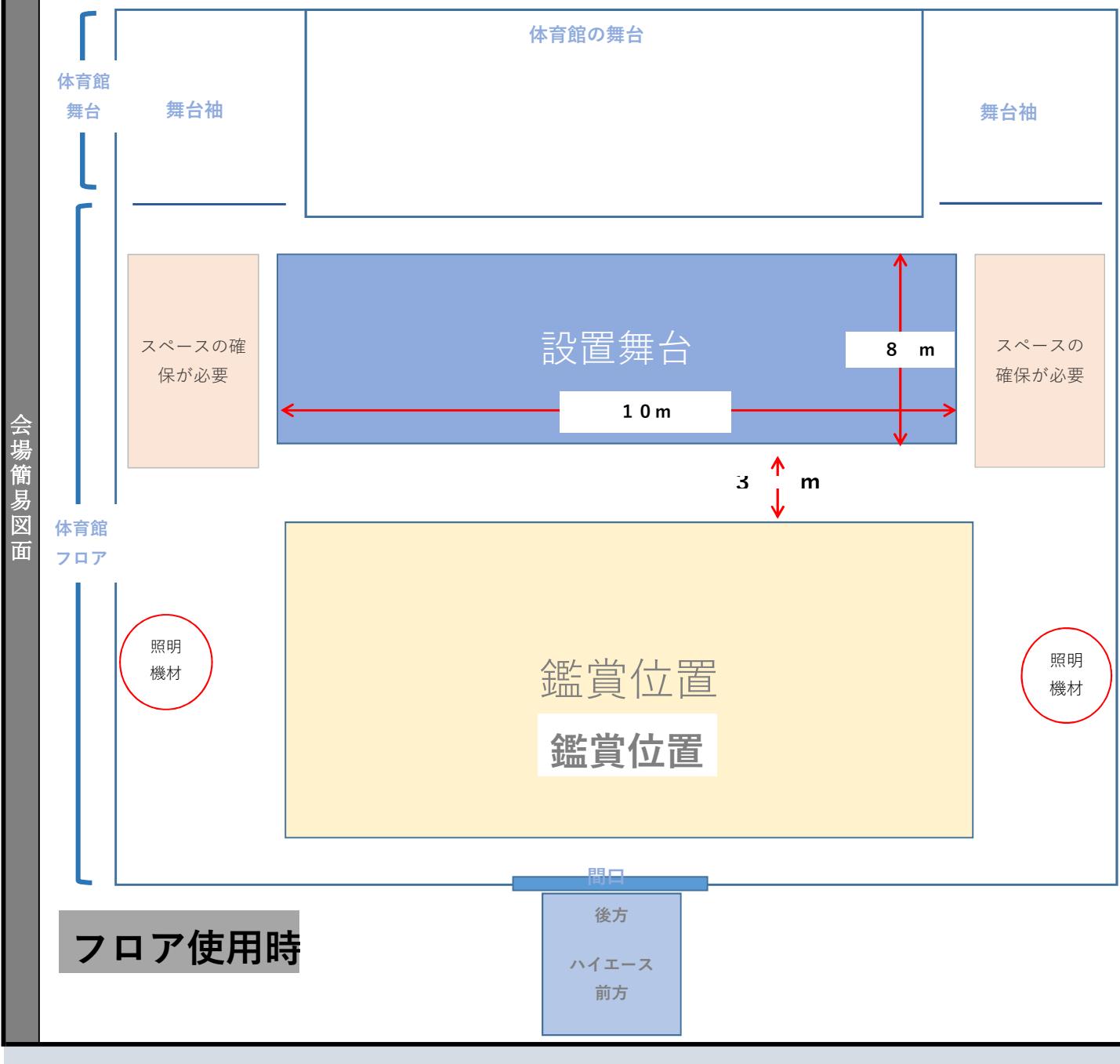
時間外対応	(任意)		万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。		
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。				
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。				
	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ				
ワークショップ					
本公演					
本公演					

個別確認事項	(任意)		上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。		
	個別ヒアリング事項				
	1				
	2				
3					

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名】

劇団 うりんこ

】

**本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫****本事業への応募理由等****事業を適切かつ円滑に実施するための工夫****【本事業を通じて実現したいこと】****【芸術鑑賞機会の充実】**

・学校における芸術鑑賞の実施は、授業時間数確保や教員の働き方改革による学校行事事選などの影響により、減少傾向が続いています。また家庭の経済格差の広がりや地域格差の広がりが進み、子どもが芸術に触れる機会は均等とはいえない状況にあります。全ての子どもが芸術を鑑賞する機会を得ることは、国民の芸術鑑賞能力向上をはかる上で欠かせないと考えます。劇団うりんこは、すべての子どもたちに豊かな感性を育む場を提供することを理念に掲げて、年間400回超の学校公演を行っています。文化芸術は、多様で寛容な世の中を作り出すために不可欠なものです。すべての児童生徒に芸術鑑賞機会を提供し、文化的な地域格差の解消を促進するため本事業に取り組みます。

**【芸術体験機会の充実】**

・コミュニケーション能力向上事業での講師経験者や児童生徒の表現活動支援などで講師経験の豊富な者をワークショップ講師として派遣し、児童生徒の状態や学校の要望を詳細に把握した上で活動計画を立て、よりワークショップの効果を高める努力をし、芸術体験の充実に寄与します。共演においては参加児童のアイディアを活かし台詞や場面を創作することで児童生徒の発想力の育成を図り、自らの発想が活かされる体験や他者のアイディアを受け入れ体験する事を通じ、自己肯定感と自信を育みます。

**【上記の実現に向けて、実施の工夫】**

・この「ともだちやーあいつもどもだち」は2016年、舞台芸術創造活動活性化事業において児童青少年演劇を牽引するトップレベルの作品創造として認められ、その助成金を受けて制作しました。初演以来9年間、小学校等での上演実績を重ねています。また、平成29年度厚生労働省社会保障審議会の児童福祉文化財特別推薦を受けています。多くの実績と高評価を得ている本演目をもって、より多くの児童生徒に芸術鑑賞の機会します。  
 ・ワークショップでは、演劇的手法での身体活動や言語活動を通じて、体感的に他者との関わりを学び、他者と協力して課題解決することで得られる喜びや楽しさを体験する事で、コミュニケーション能力の育成に取り組みます。  
 ・実施にあたっては、初めて演劇を見る児童生徒が多いことを念頭に、観やすく聞き取りやすい鑑賞環境を整えるとともに、熱中症対策や感染予防対策に留意し、本事業が児童生徒にとってより良いものとなるよう充分に注意します。

**【学校との連絡調整について】**

【実施決定後】実施校の担当者または校長先生に電話をして、実施月日の確認等を行い、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築きます。本公司実施までの流れやワークショップの進行案及び本公司の内容、タイムスケジュールなどを詳しく記載した書面、ポスターや演目のパンフレットなどを郵送します。

【実施前】ワークショップ・本公司の実施前に実施校の担当者にお電話し、実施に向けた確認をします。また、自然災害や感染症などの不測の事態における対応などを確認するとともに、時間外の連絡先をお伝えします。

【実施当日】舞台監督がご担当の先生と詳細に打ち合わせを行い、円滑な実施に心がけます。

**【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】**

・ワークショップ実施前に、児童宛に共演場面の内容を漫画とイラストで描いた手紙を送り、内容を知ってもらうとともに、ワークショップや本公司に対する興味や期待を高めます。  
 ・事前に演目のポスターを送り、校内に掲示をお願いします。ポスターを目にすることで、鑑賞に対する期待を高めます。  
 ・ワークショップやリハーサルに実施に際しては、児童の様子や配慮すべきことなどを把握するために、担任の先生との打ち合わせの時間を設けます。

**【本公司等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】**

・本公司実施後に、児童生徒に「お楽しみカード」を配布します。お楽しみカードには演目に関するクイズなどとQRコードが記載しており、QRコードを使って演目独自の限定公開映像を見るることができます。鑑賞後にも楽しめるコンテンツを用意することで、継続的な興味関心をひきだすことが期待できます。また、動画視聴を通して団体のホームページにアクセスすることで、他の演目や団体の概要などを知ることができ、舞台芸術への興味関心を喚起する効果が期待できます。

別添

なし

【公演団体名】

劇団 うりんこ

】

**①離島・へき地等における公演実績**

劇団うりんこは、1973年の創立以来ずっと、学校公演を主として行っており、年間400回超の公演実績を有しています。体育館での公演経験はきわめて豊富で、それぞれの体育館の条件に合わせて柔軟かつ効果的な舞台設営をすることができます。

離島・へき地等における公演でも、他の公演と遜色なく実施することができます。

**【離島・へき地等における公演実績】**

令和元年度 「ともだちやーあいつもともだちー」2公演 「小学校宇宙ステーション」1公演

令和2年度 「ともだちやーあいつもともだちー」1公演 「海彦と山彦」6公演

「なんちゃってヒーロー」1公演

令和3年度 「きみがしらないひみつの三人」3公演

令和4年度 「ともだちやーあいつもともだちー」2公演

令和5年度 「ともだちやーあいつもともだちー」3公演 「小学校は宇宙ステーション」3公演

「クモばんばとぎんのくちした」3公演

令和6年度 「ともだちやーあいつもともだちー」1公演 「小学校は宇宙ステーション」1公演

「かえるのそらとぶけんきゅうじょ」3公演 「くもばんばとぎんのくつした」3公演

**特別エリア区分で事業を実施するに当たっての工夫**

**②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上で の工夫や、当該地域、また特別エリア区分の企画に求められる要件を 踏まえた上で、一般区分と同様の公演及びワークショップの質を保つため の工夫**

**【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】**

- ・演目「ともだちやーあいつもともだちー」は3人の俳優が9役を演じる作品です。複数の役を俳優が演じ分ける演出は、演劇の魅力を伝える一つの要素でもあります。
- ・ワゴン車一台に積載できる量の舞台装置等であり、様々な移動・道具運搬に対応することができます。また、少量かつ軽量でありながら充分な見ごたえのある舞台装置は、鑑賞の効果を高めるものです。
- ・舞台設営と演技に必要なスペースは、ある程度変更(縮小)可能であり、会場条件に合わせて工夫することができます。

**【質を保つための工夫】**

- ・小規模会場公演を目的として制作した演目です。少人数で巡演可能なように舞台美術、演出を工夫し制作しております。
- ・公演、ワークショップ共に小規模な公演であることでの特別な変更は行いません。小規模な公演であるからこそ、より安全に、より見やすく、ゆとりを持った環境での上演が可能だと考えます。
- ・照明機材は消費電力の少ないLEDを使用しており、環境に配慮して公演を行うことができます。また、扇風機やスポットクーラーの使用も可能です。

**③特別エリア区分応募における、費用面の工夫**

- ・移動や運搬が困難な地域に対して、ワークショップと本公演を同日に開催することで派遣費を抑えることができます。

- ・経験豊富な出演者とスタッフを少人数派遣することで、旅費等を削減しつつ、質の高い公演の実施が可能になります。